

川のほとりで 歴史と楽しむカフェ

上海の歴史を見守ってきた黄浦江と蘇州河。その川沿いにある歴史的建築物でゆっくりとコーヒーを飲みながら、時代の流れに思いを馳せてみよう。

Teuscher&楊樹浦珈琲庁



行き交う船を見つめながら

日本製の大型エンジンをディスプレイ

黄浦江と造船工場のエンジン

① 楊樹浦路640号
② 158-0126-1921
③ 10時~21時

工場エリアらしい無機質さ
黄浦江の上を進む

① 毛麻倉庫
② Teuscher&楊樹浦珈琲庁
③ 上海自來水科技館
④ 瑞鎔船廠旧址(工事中)

同店裏手にある元瑞鎔船廠は残念ながら工事中だが、西側に「毛麻倉庫」、北側に「元浄水場の「上海自來水科技館」など歴史的に価値の高い建築物が並ぶ。特に「上海自來水科技館」は遊歩道の建設によって今まで見られなかった川側の構造が拝め、むき出しの太いパイプが工業エリア特有の雰囲気を出している。

全体的に工業地帯らしい土ぼこり舞う無機質な光景だが、遊歩道はランニングや散歩を楽しむ地元の人たちで大賑わい。観光地ではない、地元で溶け込んだ黄浦江の姿を横目に見ながら、秋の散歩やお茶を楽しんでみてはいかが？

100年続いた造船場の心臓

北外滩エリアをさらに北上した4号線「楊樹浦路」駅周辺。ここにはかつて巨大な造船場「上海船廠」が広がっていた。現在は黄浦江沿いの遊歩道がキレイに整備され、川の上で作られた木造の歩道を北に向けてのんびり歩くことができる。カフェ「Teuscher&楊樹浦珈琲庁」はその遊歩道にボンと佇む店だ。

ドアを開けると、さび付いた大きな機械がすぐ目に入る。これは船の心臓ともいえる大型エンジンで、この場所に100年間息づく工業精神を象徴して設置されているのだという。

黄浦江を望める3階の屋上に上れば、目の前を作業船がドットドットと唸りを上げて行き交う。外灘では観光客を乗せた美しいクルーズ船が進む黄浦江も、ここでは土砂を積む土運船がほとんどを占め、今も昔も上海の発展を支える動脈としての役割を果たしている。

BLUE BOTTLE COFFEE 裕通店



限定スイーツをいただきます

5年掛けて美しい姿に修繕

上海第二の川、蘇州河を臨む

① 長安路908号
② 400-867-6680
③ 8時~19時

広々とした吹き抜けの店内

① BLUE BOTTLE COFFEE
② 四安里
③ 胡蝶湾
④ 昌平路橋

青いボトルのマークが、赤レンガに絶妙にマッチした「ブルーボトルコーヒー」。吹き抜けの店内ではコーヒーのよい香りが立ち込め、洗練された雰囲気漂う。店内ではドリンクほか「裕通デザートセット」(20元)という限定セットを販売。蘇州河の流れを現したプレートに中華菓子がちよこんと乗ったセットは、ほろ苦いコーヒーにもピッタリだ。ぜひ1階の回廊や、2階の窓から赤レンガを臨みながら楽しんでほしい。

同店を出たら目の前はすぐ蘇州河の遊歩道。今は工場エリアとしての役目を終え、すっかり高級住宅街となった川沿い。美しいライトアップの中で上海の発展に思いを馳せてみて。

小麦粉作りに汗水垂らし

今年2月、中国初の出店を果たして話題になった「ブルーボトルコーヒー」。その場所は昔、小麦粉工場として使われていた歴史的建築物にある。

中洋折衷で赤レンガがアクセントのこの建物は1926年に建設され、小麦粉工場「裕通麵粉廠」の従業員宿舎として使われていた場所だ。その後一般住宅として改造され、1階のアーチがコンクリートで塞がれたり、あちこちに室外機が付けられていたりしたが、2015年に大規模な改修工事を実施。同時に同エリアの地下工事を行うために一度柱や壁などが分解して持ち出され、修繕を経てもう一度組みなおされた。オシャレなアーチや回廊が付いている建物は今こそ撮影スポットとなっているが、かつては多くの従業員たちがここで小麦粉作りのために日夜奮闘していたに違いない。

蘇州河のデザートプレート